国道 292 号線道路改良工事予定地内試掘調査報告書

# 上林中道南遺跡　Ⅳ

2003 年 3 月

長野県下高井郡
山ノ内町教育委員会

# 序

上林中道南遺跡は、山ノ内盆地の沓野台地の上方に位置し、国道292号線を志賀高原に向かう旧上林ゲート料金所西側の農耕地と山林に所在する遺跡であります。

この遺跡は過去3回の発掘調査が実施され、竜神社地を水源とする竜宮川流域と広大な山岳地帯を背景に、縄文時代草創期から後期、平安時代の遺構等が確認されております。

今回、長野県中野建設事務所から国道292号線道路改良計画が提示され、長野県教育委員会のご指導をいただき、平成14年11月21日から22日まで試掘調査を実施したものであります。

この調査にご指導をいただき調査報告書をまとめていただきました檀原長則団長をはじめ、ご苦労いただきました調査関係者の皆様に対し、深甚なる感謝を申し上げ、序文といたします。

平成15年3月

山ノ内町教育委員会
教育長　黒　鳥　哲

# 例　　言

1　本報告書は、平成14年度に実施した長野県下高井郡山ノ内町大字平穏所在の上林中道南遺跡発掘調査（試掘）報告書である。

2　調査は長野県中野建設事務所の委託を受け、山ノ内町教育委員会が平成14年11月21日から22日に実施した。

3　本書に使用した写真は、竹田保夫、小林元広が撮影した。

4　本書の執筆は、檀原長則と小林元広が行った。

5　出土遺物と図表類は山ノ内町教育委員会が保管している。

# 目　　次

序
例　言

1　調査に至る経過 …… 1

2　位置と環境 …… 2
第1図　遺跡の位置

3　調査日誌 …… 3

4　調査方法と成果 …… 3
第2図　試掘坑設定位置図

5　まとめ …… 5

写真図版

# 1　調査に至る経過

平成14年、長野県中野建設事務所から、長野県下高井郡山ノ内町上林地区における国道292号線道路の拡幅改良工事の計画が提示された。

工事予定地は過去に3回の発掘調査を実施した上林中道南遺跡の範囲にかかる場所であるため、長野県教育委員会文化財・生涯学習課、中野建設事務所、山ノ内町教育委員会で現地等において埋蔵文化財保護協議を実施した。

この協議に基づき、同年9月11日付で中野建設事務所から土木工事等のための埋蔵文化財発掘の通知が提出され、9月27日付で長野県教育委員会から工事着手前に記録作成のため発掘調査を実施するよう通知があった。

山ノ内町教育委員会では中野建設事務所から発掘調査の委託を受け、対象面積3,227㎡の土地について試掘調査を実施することとなった。

発掘担当者に日本考古学協会員・山ノ内町文化財保護審議会委員の檀原長則氏に依頼し、11月21日から試掘調査を実施した。

**調査団の構成**

| | | |
|---|---|---|
| 調査責任者 | 黒鳥　哲 | 山ノ内町教育委員会教育長 |
| 団　長 | 檀原　長則 | 日本考古学協会会員、山ノ内町文化財保護審議会委員 |
| 調査員 | 竹田　保夫 | 長野県考古学会会員 |
| 調査補助員 | 村上　治 | |
| 事務局 | 山ノ内町教育委員会事務局 | |
| | 岩本　敏男 | 教育次長 |
| | 藤沢　光男 | 社会教育係長 |
| | 小林　元広 | 社会教育係 |

# 2 位置と環境

山ノ内町は長野県の東北端に位置する。中野市で千曲川に合流する夜間瀬川の上流地帯である。平地を形成する山ノ内町盆地は、標高約550～760mで、ほぼ夜間瀬川を中心として存在する。今回調査した遺跡は、この頂点に位置する。この盆地の面積は山ノ内町の総面積の1/7で、残りは観光地で知られた志賀高原を含めた山岳地帯で群馬県と接している。

この山々や渓谷は広大で人跡未踏といわれる地帯もある。この奥山には上高井郡高山村に存在する湯倉洞窟遺跡のような、狩猟の際に仮泊する洞窟遺跡が存在する可能性が指摘されている。

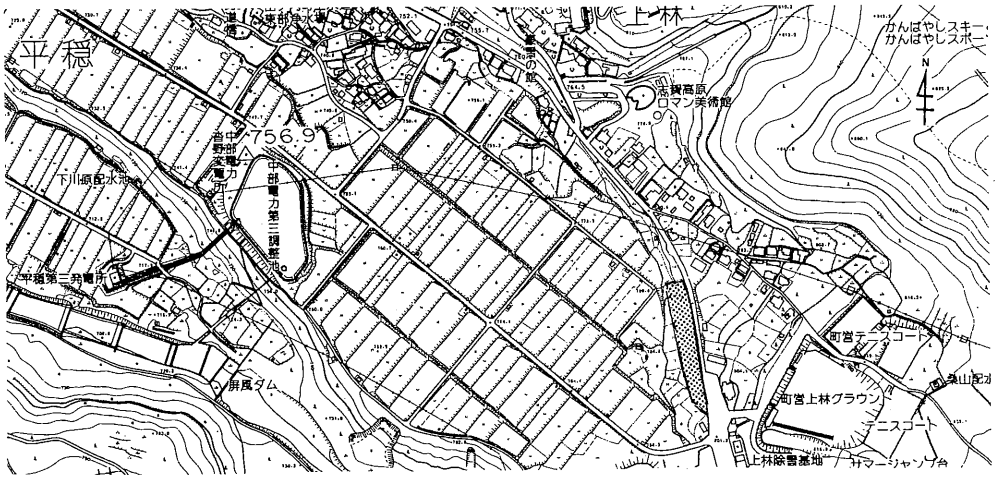
先に述べたように調査該当遺跡は、平地と山地の接点に位置し、山への基地的な存在の遺跡である。加えて遺跡上方には、沓野区で所有管理する天川神社所有林地帯から清冽な湧水が多量に流れ、遺跡を貫流している。

この遺跡に国道292号線があり、長野オリンピック開催に備えて道路改修がなされ、現在は快適なドライブコースとなっている。しかしこの道路が開かれた昭和初年以前は、この遺跡から東に向かい滑坂・波坂（なめっさか）を越えて志賀高原に入った。これは夜間瀬川上流の角間川の渓谷が急峻で、澗満滝などがあり、川沿いの道は交通に適さないためである

この交通の群馬県側の拠点は、草津白根山の麓にある草津温泉で、沓野から牛または馬（近世は牛）で荷物を運んだ。この往復は一日の行程と言われていた。

今回調査の遺跡は前回の平成7年(1995)に行われた、上林中道南遺跡調査地の北方に当たり、調査該当地の試掘結果によれば、竜宮（りゅうごん）川に沿った水田は、造成以前の固定されない流路のため、地山面の土層は自然の破壊を受けていた。

また沓野の台地面には、火山灰に覆われ生成されたローム層は存在せず、砂礫の多い地山層を形成している。しかし今回の試掘地の内、道路にそった傾斜地にはローム層の存在する可能性がある。




第1図　調査地の位置　(1:10,000)

# 3 調 査 日 誌

平成14年

11月21日　計14箇所の試掘坑を設定し、重機1台を使用し掘削、状況を確認する。
試掘坑4箇所から縄文時代早期～前期、平安時代の土器片を検出する。

11月22日　埋め戻し作業を行い、調査を終了する。

# 4 調査方法と成果

今回の試掘調査は、先に述べられているように道路拡張改良工事に先立って、遺物・遺構を確認して本発掘に備えて調査面積を確定する作業であった。

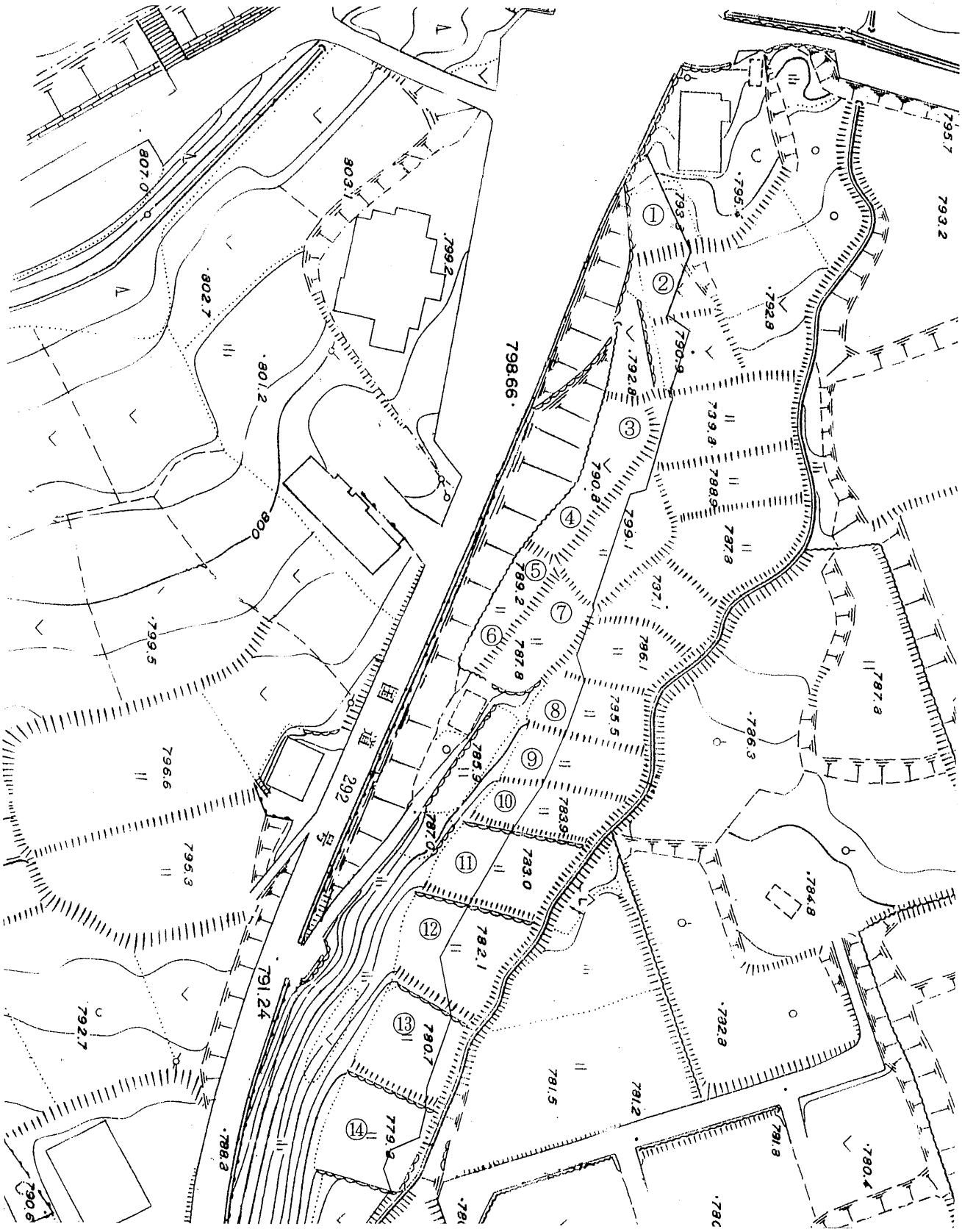
したがって調査地は道路に沿った細長い形状を示している。このため試掘坑はほぼ縦列に14箇所を設定した。その平均的距離は15m前後である。試掘坑は横2m、長さ4mの大きさで、深さは地山層に達する約1～2mであった。水田面では、造成時の撹乱を避けるため、一枚の田の中間を選んで行った。

これらの掘削は大型のパワーシャベルを使用し、調査員が立ち会い、耕土を取り除いてから遺物の検出、包含層と認められる土層は、なるべく薄く削りとった。

その結果、試掘坑No. 4からは縄文時代早期に属する条痕文・沈線文の土器片8片が検出された。同No. 5からは同じく早期の楕円押型文土器7片が検出され、これは同一の器種と推定される。また、条痕文土器も1片見つかっている。同No. 8からは縄文時代前期の少量の繊維含有（今は痕跡）の縄文土器片1片の検出と、平安時代の土師器1片があった。さらに同No. 11の水田下層の砂礫面から平安時代の土師器の坏（皿状の土器）の底部が検出されたが、ローリングしており、竜宮川の影響により、原位置から移動したものと認められた。

以上の成果は、平成7年（1995）の隣接地の調査結果から得られた土器の様相の範囲内に含まれ、新しい知見はない。しかし前回調査時の遺跡確認範囲の周辺から、今回はさらに広がりが確認された。竜宮川に面した西斜面にどのような遺構・遺物が見られるのか興味あることである。

前節で述べたように発掘調査予定地の遺構面下層は、黄色土（ローム層？）の可能性があり、遺構の確認作業に期待が寄せられる。




第2図　試掘坑設定位置図　(1:1,000)

# 5 ま　と　め

縄文時代早期は希薄な人口で、遺跡の数も限られている。生活の領域は特に規制されず、季節、食料の獲得などに移動が繰り返されていたと推定される。利根川上流の群馬県側との交流や、遠くは関東地方、中部山地との交流が過去の山ノ内町の縄文時代の遺跡調査で確認されている。

押型文土器は中部山地に一つの核をもつ土器群で、文様などに変化がみられるからその文化は長い期間にわたっていたと推定されている。関東の撚糸文土器と編年、平行関係はどうなるのか、まだ課題が残されている。

前回の平成7年（1995）上林中道南遺跡の調査で確認された細い沈線文、擦痕状の土器は、縄文時代早期でも後半に属すると推定されるが、新潟県を含めてこの地域の様相がよく把握されていない土器群の一つである。今回の試掘調査では検出できなかったが、絡状体圧痕文の土器も、その変遷が不明確の土器の一群である。

いずれにしても縄文早期の土器は、平地面が標高 300m地帯の中野市では遺跡の検出数が少なく、それに比較して、今ではどちらかと言うと、積雪寒冷地に属する標高 600m以上の山ノ内町で、遺跡が多く発見されている。ことに楕円押型文土器は、穀粒文と呼ばれたように誰にも分かる文様で、確認数が多い傾向がある。

今まで報告されなかった楕円押型文土器が、同町上佐野からも発見され（『佐野之歴史』1979、南小学校蔵）、本発掘の報告書で同時に報告したい。

前回の同遺跡発掘調査では、縄文時代のほぼ全般にわたる遺物が検出されている。本発掘の成果も期待されるところである。

平安時代の土師器の出土は、長い間（弥生、古墳時代）人の住まなかったこの地に再び山に資源を求める人々が住んだことを示しており、その是非を含めて、その実態に迫れればと考えられる。

いずれにしても県内でも数の限られた草創期・早期の遺跡であり、本発掘では遺物の層位関係や、遺構の確認を慎重に進めることにしたい。

写真1　出土土器

写真2　試掘坑No.5

写真3　調査地遠景

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | かんばやしなかみちみなみいせき |
| 書　　名 | 上林中道南遺跡　Ⅳ |
| 副 書 名 | 国道292号線道路改良工事予定地内試掘調査報告書 |
| シリーズ名 | 山ノ内町の埋蔵文化財 |
| シリーズ番号 | 17 |
| 編著者 | 檀原長則、竹田保夫、小林元広 |
| 編集機関 | 山ノ内町教育委員会 |
| 所在地 | 〒381-0498 長野県下高井郡山ノ内町大字平穏3352番地1　TEL0269-33-1102 |
| 発行年月 | 西暦2003年3月 |

| 所収遺跡名（ふりがな） | 所在地（ふりがな） | コード 市町村 | コード 遺跡番号 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 ㎡ | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 上林中道南（かんばやしなかみちみなみ） | 長野県下高井郡（ながのけんしもたかいぐん）<br>山ノ内町（やまのうちまち）<br>大字平穏（おおあざひらお）<br>字桑山道南（あざくわやまみちみなみ） | 205613 | 3 | 36°<br>43′<br>28″ | 138°<br>26′<br>41″ | 2002.11. 21<br>～<br>2002. 11.22 | 106 | 国道292号線道路改良 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 上林中道南 | 集落跡 | 縄文時代<br>平安時代 | | 縄文時代土器<br>平安時代土器 | |


上林中道南遺跡　Ⅳ

発行日　平成15年3月

発行者　山ノ内町教育委員会
〒381-0498 長野県下高井郡山ノ内町大字平穏3352-1

印刷者　株式会社うさぎや
〒381-0401 長野県下高井郡山ノ内町大字平穏3364-4